

YOUNG BLOOD

「つながろう! 「仲間」と! ともに創ろう明るい未来を!」

JR連合 青年・女性委員会 幹事 橋爪 博史

第35回幹事学習会の大阪の地で開催

2016年3月21日(月)、JR西労組本部会議室にて第35回幹事学習会を開催しました。JR連合青年・女性委員会の幹事会に加え、第14回地協代表者会議に出席するメンバーを含め、計12名が参画し、安全、組織について様々な視点から考えることができました。5月に開催する第21回ユースラリーを控え、大阪の地で学ぶ必要がある事柄を検討し、2005年4月25日の福知山線列車事故について学ぶこととしました。

当日は、JR西労組中央本部本庄教育部長をお招きし『福知山線列車脱線事故から学ぶ』をテーマにご講義を頂きました。講義の前段に、JR連合青年・女性委員会岡本議長より、福知山線列車事故概況について講義を受けました。お客様の命を預かる、鉄道産業で働く者として、安全を覆す事故を発生させた企業として世間から向けられる視線と、信頼を取り戻すために取り組むべき姿勢について学び、肌で感じることで、青年・女性委員会として守り続けるべき信念を再認識することができました。また、会社と労働組合が方向性を同じくして信頼回復に向けた取組みを、当時の映像も交えながら学ぶことができました。一方で、自らに課せられた使命を覆し第三者的立場に立って会社を批判する組織の考え方を知り、労働組合として、会社の発展と組合員・家族の幸せのために取り組むべき方向性を、再確認することができました。今後、事故を忘れない取組みから『知るため』の取組みを語り継ぐ重要性について、幹事一同意識を共にすることができました。



ユースラリー開催に向け、第14回地協代表者会議



第14回地協代表者会議は、第35回幹事学習会に引き続き、開催しました。

「第21回ユースラリー in きんきら☆きんき」の開催が近づく中で、各地協の現在の取組みや抱えている課題について、認識の共有を図る場であり、またJR連合の思いを伝える場となりました。

活動が活性化している地協でも、活動が鈍化（マンネリ化）している事や地協での役員育成に関する課題が話題の中心となりました。意見交換をする中で、参加者は「JR連合各地協では、単組ではなく、地域単位での交流の場」として、改めて活性化させていくことが求められているとの共通認識を持ちました。

「より多くの仲間! より多くの豊かさ」を実現していくために、頑張りましょう♪